

はたらく若者

第4回

終身雇用制度は崩壊し、働き方が大きく変化している今日。一人ひとりで見ると、よくある話かもしれませんが、でも複数回を並べてみると、そのはたらく姿から現代の若者のすがたがあぶり出されるのではないか。「はたらく」から若者の今を見つめます。

あなたのお仕事は？

京都の中央卸売市場の八百屋で働いています。家業としてやっています。主に野菜を加工して卸しています。今みたいに営業日にフルタイムで働くようになったのはここ1、2年くらい。それまでは漫画家を目指して漫画を描いていたので、忙しい時期の手伝いだけでした。やっぱり始業時間は早いですが、一般的な仕事と違って、昼頃には終わるので自由に使える時間は作りやすいですね。

家業ってどんな感じですか？

家族との仕事は、やっぱり生活とは違う部分はあるって、身内でも敬語

で話しています。僕は、家族以外の社員さんも含めて一番年下なので、でも就業ルールはアバウトなのでそこはやりやすいかな。やりにくさでいうと、他の社員さんの目もあり、やっぱり祖父母も優しくするわけにはいかないみたいで、あえて厳しくされたりして、厳しすぎるんじゃないかなと思うこともあります。

んだ時に、声をかけてくれた若手編集者の方に原稿を見せたり、連絡をとったりするようになりました。その編集者が退職された後の担当編集者は原稿を完成させて東京まで持っていくも「ネームの方が良かった」の一言しかなかったり、連絡先もくれなかったり、とてもムカつきました。

接つながらっているわけではないけれど、取材したり話を聞きに行ったりして得た、広く浅い豆知識みたいなものは今の仕事で人と会話する時に活かしています。八百屋では人と話すことが多いので、いろんな考え方が増えたかなと思います。

漫画家を目指していたというけど、今が、今の仕事に就いた経緯を教えてください。

中学2年生の時、僕が机に落書きしていたのを見ていた友達から誘われて、一緒に描き始めました。僕が話を作って、絵は相方が描くという形でやっています。

中学生の時は新人賞に応募して、高校生の時はスカウトキャラバンや、イベントにも飛び入りで持ち込みに行きました。19歳くらいで東京の出版社に原稿を持ち込

漫画家を目指すのと、今の仕事、どっちがっていると思いますか？

漫画を作ることが今の仕事に直



あなたに「はい、はい、はい」と言わせ働くならやりたいこととやりたいという気持ちがあるから、漫画家になれるんやったらなりたいし、それを仕事にしたいなと思ってます。中学生からずっと描いてるので、普通に「はたらく」とか「はあんまりイメージしていません」で標も立てていましたし、高校生の頃は絶対に美家は継がへんと思っていました。家族からのちよっとした手伝いのお願ひも断っていて、それくらい漫画一筋でやっていたらと思うようになりました。



※制作中の作品より

やっぱり、漫画しか知らなかったんです。「コンビを解消しても一人で描こう」と思っていたくらい、自分にとってはまだ「漫画」だったので、社会についてわかってない時期が長かったかなと思います。漫画のテーマについて専門的に調べるとはありましたが、逆に雇用される働き方は、同世代が就職していつて話を聞くことで知ることが増えました。けれど、僕が社会のことについて知らなかったのは仕方ないと思います。わからないことは後で知っていけばいいやとも思っているんで、とりあえず今はいろんな人と話をするように心がけていますね。

あんまり社会のことを知らなかったけど、だから「今いるんなことを知って、今まで漫画でも納得いかなかった部分や詰められなかった部分が活かせるんじゃないかな」と思っています。そう思うと今の仕事はむしろやれることはいっぱいあるんじゃないかなと思っています。どちらかという漫画のほうで役立ったことはないですね。(笑)



松原 大河さん 24歳
八百屋・加工業